

こどもの幸せのためにできること

～特性のあるこどもの理解と支援～

第1回 特性のあるこどもに対する理解を見直そう

聖隷クリストファー大学
リハビリテーション学部
作業療法学科

NPO法人むく 代表

浜松市発達支援巡回指導員

伊藤信寿 1

普段の支援の振り返り

- ・ 強迫的な支援になっていないか？
- ・ 怒っていないか？
- ・ 待てているか？
- ・ 罰を与えてないか？
- ・ 子どもの気持ちより、大人の気持ちが優先されていないか？

1. 障害児・者の捉え方の変遷

医学モデル ⇒ **社会モデル**

障害は障害者ではなく、社会が作り出している

障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）

日本 2007年に条約に署名

Nothing About Us Without Us

（私たちのことを、私たち抜きで決めないで）

障害者の医療や支援に対するニーズと障害者が直面する社会的障壁の双方に取り組む必要性

障害から個性、特性へ

幼児期においては、みんな自閉であり多動である

- ・ 感覚運動期
- ・ 象徴が未熟
- ・ 実行機能が未熟
- ・ こだわり
- ・ 第一次反抗期（自己中心的思考：他人の気持ちがわからない）

みんな発達障害をもっている

- ・ 運動が苦手
- ・ 勉強が苦手
- ・ 方向音痴
- ・ 発表が苦手
- ・ 偏食

2. 支援の考え方の変遷

今、世の中は共生社会を目指しています

共生社会

必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会
インクルーシブ教育システムの理念が重要

静岡県教育委員会においても

共生社会の構築を目指しています

障害のある幼児児童生徒も障害のない幼児児童生徒も、居住する地域の中で、共に支え合い育つとともに、個の教育的ニーズに応じた適切な支援を行う。

共生社会の形成にはインクルーシブ教育が重要

インクルーシブ教育とは

文部科学省

障害の有無にかかわらず、誰もが望めば自分に合った配慮を受けながら、地域の通常学級で学べることを目指す教育理念と実践プロセス

特別支援教育

インクルーシブ教育システム構築

- ・人間の多様性の尊重
- ・障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み（同じ場で共に学ぶ）
- ・自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられる
- ・個人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供
- ・個人に必要な「合理的配慮」の提供

障害をもつ子どもとの交流

障害児とともに育つ障害のない子どもたちが、大人より障害児とのコミュニケーションが豊かである（鯨岡,2006）

発達障害児の友人との相互交流を分析した研究では、健常児と障害児が集団で交流する場合、健常児はスキルの獲得を要求される。しかも、健常児のスキルが向上するに伴って障害児もスキルが高まる（金,2005）

原因思考から結果／未来思考へ

未来思考

結果を手に入れたら、どんな人生を歩みたいか
問題を解決した結果、お子さんに将来どうなってほしいか

結果思考

どうしたら結果が手にはいるのか
たとえ問題を抱えていたとしても、ほしい結果を手に入れるにはどうしたら良いか

原因思考

どうしたら問題を減らすことができるか
歯を食いしばって「良くなるまで」努力を重ねていく
結果が出ないと幸せではない

景色を変える結果思考

ほしい結果を先に手に入れる

問題が解決してから、
ほしい結果を手に入れる



例) 麻痺があり歩けない青年
ほしい玩具がある

先に好きなことを実現した方が、
問題が解決するスピードも加速する

原因思考

歩行訓練に明け暮れる毎日

結果思考

- ・ 電動車いすを使って手に入れる
- ・ 通販での買い物方法

支援の時に考えること

①支援は、まず子どもを理解することから

こんな支援をしていませんか？

問題行動を起こすから、〇〇を禁止するなど

人を叩く ⇒ 人から距離を離す、謝らせる

男児が女児を触る ⇒ 二人が会わないようにする

窓からモノを捨てる ⇒ モノを与えない

など

トラブルは支援のチャンス

人を叩く ⇒ コミュニケーション手段など

男児が女児を触る ⇒ ボディイメー、性教育

窓からモノを捨てる ⇒ Calm Downの方法、片付け

など

子どもを理解するために

問題となる行動の機能分析

応用行動分析的な考え方

困った行動には「機能」(理由) がある

- ①要求機能
- ②注目機能
- ③逃避機能
- ④自己刺激 (感覚)

何が問題行動を生起・維持させているのか

要求機能

- ・ 適切な要求の仕方を獲得していない
- ・ 要求を伝えても理解してくれない
- ・ 今は、ダメ！が伝わっていない

注目機能

- ・ 怒られることも楽しい関わりのひとつ
- ・ 怒られる時しか、関わってくれない
- ・ 適切な注目の引き方を獲得していない

逃避機能

- ・ 開始、終了が伝わっていない
- ・ 何を怒られているのかわからない
- ・ 難しいことを求められ過ぎている
- ・ 嫌なことばかり、させようとする

自己刺激

(感覚刺激)

- ・ 好きな感覚刺激を求める (sensory needs)
- ・ 特にすることがない時、することがわからない時など

②誰が困っていますか？

こんな相談をよく受けます

- ・ 休み時間になるとエレベーターをひたすら見ている
- ・ 授業中に奇声をあげる
- ・ 食事や学習する時の姿勢が悪い
- ・ 鉛筆を咬む など

困っているのは 支援者？、先生？、子ども？

困っているのは子どもたち

- ・ 休み時間になるとエレベーターをひたすら見ている ⇒ 安心を得る
- ・ 授業中に奇声をあげる ⇒ 過敏さがあり、逃げたい
奇声をあげることで、他からの音を遮断している
- ・ 食事や学習する時の姿勢が悪い ⇒ 低緊張で食事や学習に注意が向くと
姿勢がおろそかになってしまう
- ・ 鉛筆を咬む ⇒ 安心を得る、動きたいのを我慢している など

このような行動をするのは、何かのサインの可能性

事例 Bくん

休み時間になるとエレベーターをひたすら見ている子

特別支援学中学部

休み時間になるとエレベーターを見ている

(エレベーターのドアの開閉や、階数に明かりがつくのを見ている)

先生はやめさせたい

無理にやめさせると、先生とBくんとで、トラブル

Bくんはイライラしたまま、次の授業を受け、イライラを引きずったまま

やめさせる前に、なぜエレベーターを見るのかを考えることから始める

そこで、ある仮説を立てる

勉強のストレスを発散しているのでは？

仮説に基づき対応を変える（仮説の検証）

エレベーターを見に行くことを見守る



授業の時間になり、先生が呼ぶと、素直に教室に戻る



勉強のストレスの発散ではという仮説が示唆さえる

これにより、Bくんは落ち着いて授業を受けるようになり、先生も楽になった

③子どもたちは、日々がんばっています！

聴覚過敏や触覚過敏の子 集団に入ってがんばっています！

でも時々、逃げたいのです

言語理解が難しい子 ロシア語を話す先生の話しを、がんばって聞いています！

でも、何を言ってるかわからないので、外が気になります

落ち着きがない子 動きたいのに、がんばって座っています！

でも、座っている感覚が感じにくいので、ソワソワ

してしまいます

特性のある子どもたちは、定型発達の子どもたちより、忙しいのです

- ・リハビリテーションを受ける
- ・心理を受ける
- ・定期的に受診する
- ・幼稚園／保育園と、児童発達支援との並行通園（環境が変わる）
- ・過敏な子は、いろんなことに注意を払わなくてはならない
など

特性のある子どもたちだけが、がんばればいいのでしょうか？

インクルーシブ教育

いわゆる普通という枠に近づくように，特性のある子どもだけが，頑張るのではなく

特性のある子どもが社会に適応できるように頑張る

+

社会や周囲の人が特性のある子どもに適応するよう努力する

④原因は大人？

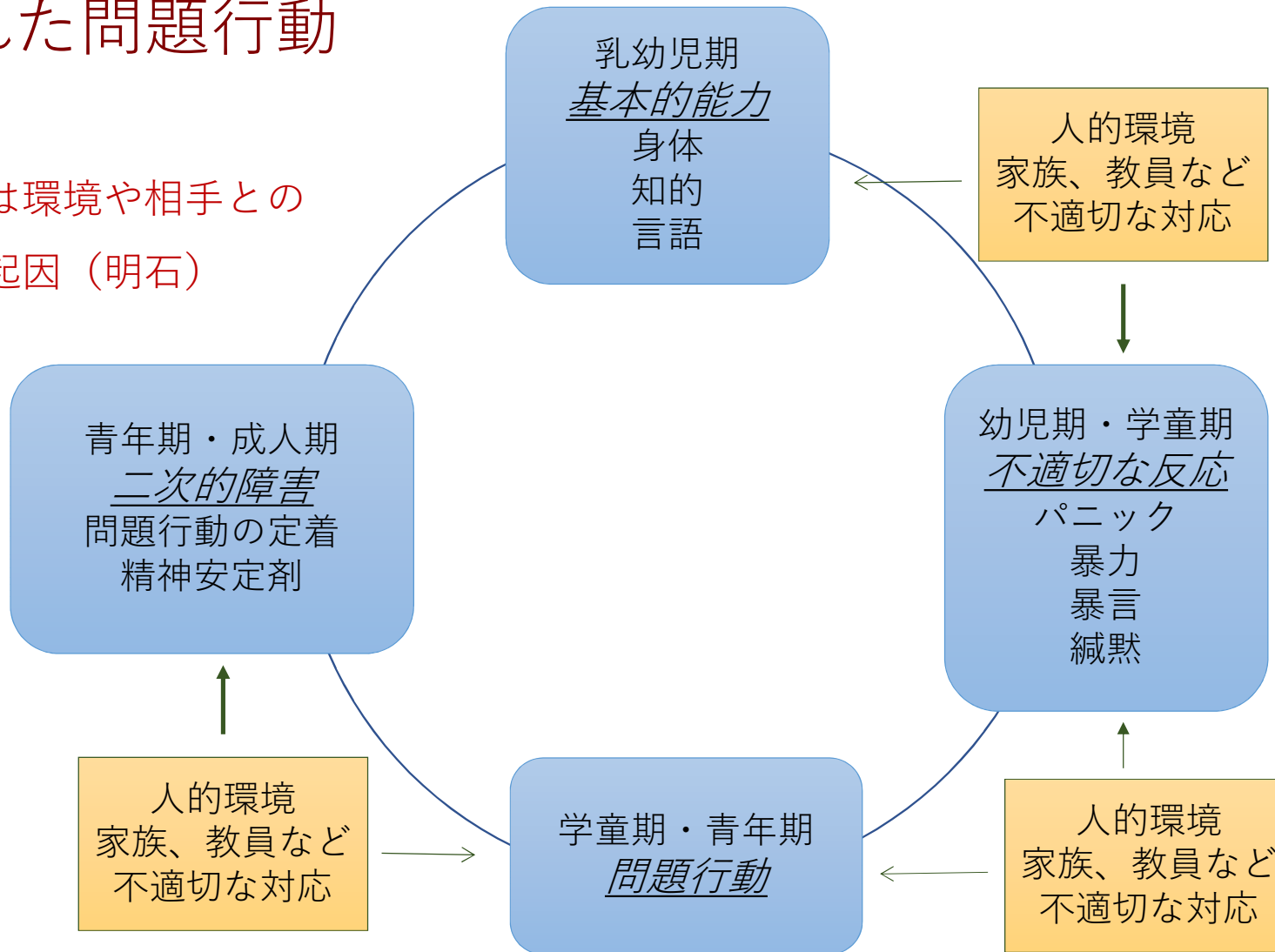
- ・ 子どもの可能性に限界を作っているのは，大人かもしれない
- ・ 障がいをつくっているのは，大人かもしれない

「うちの子は，自閉症だから，絵カードを見せてから・・・させてください」

「TEACCHの研修を受けてきたから，自閉症は大丈夫」

作られた問題行動

問題行動は環境や相手との
関係性に起因（明石）



次回

10月24日（火）

19：00～20：00

第2回

特性のある子どもに対する支援「基礎編」

子どもを理解する一つの視点として、感覚統合療法について